

鎌倉 誰でも訪れやすく

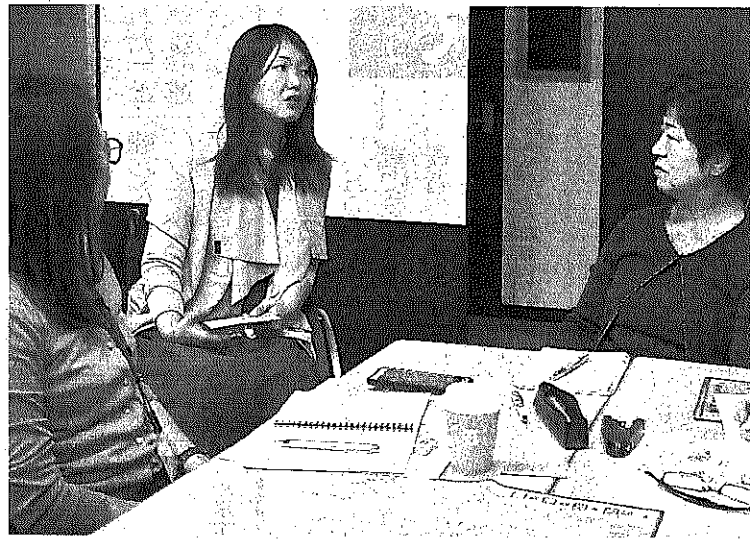
観光

首都圏屈指の観光地・鎌倉。その現状を変えよう。古い街は狭い路地や階段だらけ、観光客の雑踏もひどく、障害のある人たちや、その支援に携わる人たちの間では「バリアフリーの観点からは全国でワースト3に入る」とも言われて



③

鎌倉駅西口にある協会の会議室で昨年11月、車いすを使っている人、視覚障害がある人、臓器など体の内部に障害がある人といった障害当事者を講師に招いた「接遇講習」があった。観光協会が主催し、観光系



11月に行われた接遇講習は1日ばかり。電動車イスを使う小澤綾子さん（中央）の要望を満たす鎌倉観光コースなどを考えた＝鎌倉市御成町

現状打破へ 当事者から接し方学ぶ

内所スタッフのほか、市職員ら50人ほどが受講した。講師の一人、小澤綾子さん(37)は電動車いすを利用。日本IBMの人事部で働き、シンガー・ソングライターとしても活動中の活

活な女性だが、20歳で難病の筋ジストロフィーと診断された。「10年後には車いす」と告げられ、「人生、車いすになったら終わり」と思い詰めた。

「当時は車いすの若い人をあまり見かけず、イメージできませんでした。でも最近街に出てくる車いすの人、増えましたよね」。淡々と語る小澤さんにみんな静かに聴き入る。

2018年に初めて車いすに乗ると「6キロも太っちゃいました」。一人のおしゃれな女性として、車いすに注文も付けた。「意識としては乗り物でなく足。でも電動はカスタマイズが難しく、色も選べません」

歩行者と比べて頭の位置がぐっと下がる車いすは自動車と死角に入りやすく、存在に気づいてもらえないこと。車いすを入れるトイレの場所を頭に入れておかないと、不安で外出できないこと。外出先でトイレに行ってもすぐには入れず、我慢することが多いこと。目今の電車に乗るうえで「20分後でもいいですか」と係員に言われたこと……。

実際に満ちた小澤さんの日常に、参加した市観光課の小嶋亜友美さん(26)は「意識が180度変わりました」と言う。「障害は個人の身体的な能力の違いではなく、社会的なインフラが理由だと気付きました」

接遇講習では、鎌倉観光のモデルコースも考案した。「寺社の砂利道はだめ」「路線バスに乗れる車

2017年に発足した同センターは、障害者が暮らしを楽しめる環境を目指し、県内各地の観光地のバ

いすは2台まで。始発からひねり出すと、小澤さんは「無理と決めつけず、選択肢を示されるのがうれし

い」。親切に案内してくれる人との出会いこそ、旅の思い出になるという。観光協会は公式ホームページ(<https://www.tci-p-kamakura.com/>)を

ら近い寺へ」などの提案を英語、中国語、スペイン語など5カ国語対応にした。NPO法人「湘南バリアフリーツアーセンター」の協

力で、市内のホテル5カ所の車いす対応トイレや手話可能スタッフの有無、アレルギーや刻み食への対応などをまとめた表も、このサイトに掲載している。

その言葉をうれしそうにメモした小嶋さんはいう。「声を掛けても、飲食店の3、4割は『うちはトイレもない』と調査自体を断られる。でも、本当は段差があっても、せつかくの

スロープが急でも、気に掛けてくれる人がいるお店は大丈夫なんです」

鎌倉市観光協会専務理事の大津定博さん(57)は「観光で大切なのは歓迎する心。障害がある人、ない人、年配の人、若い人。いろいろな興味とニーズを知った上で、街を楽しむ手助けをするのが我々の役目」と話す。「助ける人がいれば段差は問題じゃないはず

暮らしも楽しく 段差を調査

「無理と決めつけず、選択肢を示されるのがうれし

「無理と決めつけず、選択肢を示されるのがうれし

「無理と決めつけず、選択肢を示されるのがうれし

「無理と決めつけず、選択肢を示されるのがうれし

「無理と決めつけず、選択肢を示されるのがうれし

「無理と決めつけず、選択肢を示されるのがうれし

「無理と決めつけず、選択肢を示されるのがうれし

「無理と決めつけず、選択肢を示されるのがうれし

「無理と決めつけず、選択肢を示されるのがうれし

「無理と決めつけず、選択肢を示されるのがうれし